



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋 正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

令和二年度全国統一防火標語
その火事を
防ぐあなたに
金メダル

第七四期初任教育 一ヶ月を振り返って

秋田県消防学校

前号に続き、一ヶ月を振り返った感想を紹介します。



佐藤 麗白
(北秋田市消防本部)

最初は不安だらけでしたが、仲間たちと少しずつコミュニケーションを取れるようになってきました。徐々に訓練も始まり、新しいことがたくさんあった一ヶ月でした。

体力錬成も始まり、腕立て、腹筋、ダッシュなど、体を動かす機会も増えてきました。訓練は小隊に分かれて取り組んでいますが、アドバイスをしたりもらったり、切磋琢磨して頑張れていると思います。

効果測定では、たくさん勉強したつもりでしたが、全然解けません。努力が足りないし、毎日の復習がいかに大切分かりました。反

復して勉強して、高得点を取れるように頑張りたいです。

ロープ結索や小型ポンプ操法、三連梯子など、危険と隣り合わせの訓練も始まりました。集中して丁寧に素早く行えるよう頑張りたいです。

入校直後は、一ヶ月は長いだろうと思っていました。一ヶ月で立派な消防官にだけ近づいているの分かりませんが、一日一日成長していけるようにしたいです。



小林 大理
(にかほ市消防本部)

入校して最初の一週間はとても大変でした。慣れない寮生活もあり、体力的にも精神的にも疲れてしまっただからです。最初は九月まで頑張れるか不安でしたが、二週目に入ると生活リズムも掴めてきたので精神的に楽になりました。

コロナの緊急事態宣言が発令され、消防学校でも三密を避ける対策を様々な行いました。座学を行う部屋

を分けたり、食事を二班に分けるなどしました。今までは違う動きになりましたが、それぞれの班の絆が深まったと思います。

座学は細かい部分や分からなかったことも学べるので、学んだ知識を活かせるように、これからもしっかり勉強したいです。訓練は基本的なことをやりましたが、基本ができてこそその応用なので、今を大切にしたいです。

自分の一番弱いところは体力なので、四月より五月、五月より六月と、前月より体力が向上するように日々頑張っていきたいです。



石坂 賢太
(鹿角広域行政
組合消防本部)

初めのうちは寮での生活や一日の流れに対応できずにいたが、一ヶ月経過したことで、少しずつだが慣れてきている。

一ヶ月経って自分が変化した事がある。時間に対する考え方だ。消防学校での生活は全て時間が決められて

おり、全員時間厳守で動いている。今までは時間ギリギリで焦って動いていたが、準備する時間や移動時間を逆算して行動するようになった。授業や訓練の時間もだが、授業が終わってからの夜の時間を有効に使えるようになってきた。

毎日違うことをするのでなく、この時間帯はトレーニング、その次は学習など、目安を決めることで生活リズムを確立することができた。

決められた時間の中で逆算して行動することは所属に戻ってから活かせると思う。デスクワークであったり、外での訓練であったりと、やるべき事は今以上に多くなると思う。その中で自分の課題をこなすために、一人で練習する時間なども作り出さなくてはならない。

消防学校だけでなく、これから先を見据えて、時間に対する意識をもっと強く持つていきたい。



渡部 颯人
(湖東地区行政
事務組合消防本部)

私は、高校の部活で寮生活や団体生活、規則正しい生活を経験していたので大丈夫だと思っていました。が、実際には想像以上に厳しくて大変でした。

特に、服装点検や通常点検が今ま

での生活と大きく違いました。

階級章の向きやズボンの折り目、シワなどを指摘されることが多くありました。アイロンかけが慣れていなくてシワが取れなかったり、折り目が二重になっていて教官に注意されることがあるので、毎日自分で点検するよう努力したいと思います。

訓練でも座学でも覚えることがたくさんあり、正しくできない時もありましたが、放課後に練習したりノートにまとめて繰り返したりしながら少しずつ出来るようになりましただ。もっと自主練習をして頑張りたいと思います。

来月からは応用の訓練や座学が始まるので、一層気を引き締めて努力していきたいです。



佐藤 孝太郎
(大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部)

入学して一ヶ月、私はどれだけ成長できたのだろうか。何も分からない状態から、座学、訓練と回数を重ねることに新しい知識を吸収していった。日常生活でも、集団における周りへの配慮、規則など、今までの生活が一変した。厳しいのは当たり前で、それは即戦力として所属に戻るためだと自覚している。
まだ始まったばかりだが、気を抜

かずに日々を過ごしていく。

入校して感じたことは多くある。特に訓練礼式は、なぜそこまでやらなければいけないかと疑問に感じたが、教官から言われた消防士である前に公務員であるという言葉で意識が変わった。

節度ある動きは大事だが、自分の服装も大事だと感じた。確かに、人の命と財産を守る消防士がだらしない服装、動きをしていたら、私自身不快に感じる。

私はこの半年間で、消防士として公務員として人として成長していきよう努力していく。

これから、座学、訓練とさらに厳しくなっていくと思うが、自分に厳しく何事にも妥協することなく、一日一日を大切に過ごしていく。



期 74
初任教 実務研修を

終えて

秋田県消防学校



藤原 佑馬
(秋田市消防本部)

二回目となる実務研修は初めての隔日勤務でした。実際の職場ではいつ出勤命令がかかるかわからないため、普段感じることもない緊張感で研修を行いました。初任教を終えるところに各消防署での勤務が始まるので、切り替えを大事にして、いつでも災害出動できるように緊張感を持って臨みたいのです。

研修内容は、交替要領、資機材点検、基本結索、器具結索、ホース延長、三連梯子を用いた訓練、予防業務要領、通信受付勤務要領を行いました。二回目の実務研修ということもあり、三ヶ月間の成果を見せようと意気込んで臨みましたが、指摘される点が多くあり、訓練不足を痛感しました。また、二四時間常に気を張っているのは体力的にも精神的にもきつく、勤務後半には集中力が欠けてしまいました。
今回の研修では、現場の雰囲気や一日の流れ、勤務要領などたくさん

のことを学べた反面、課題や反省点も多く見つかりました。初任教でも残り三ヶ月を切り、訓練も現場を想定したものが増えてきました。

限られた時間で多くのことを吸収し、自分の物にすることが大事なので、一層気合を入れて臨み、次の実務研修では成長した姿を見せられるように精進していきたいです。



奥村 甲
(大館市消防本部)

初の宿泊の実務研修を終えて、卒業後、所属で働くのがとても楽しみになった。大館市消防本部の先輩方は親切に物事を教えてくださったので、とても気持ち良く研修を終えることができた。

午前中に訓練を行い、午後には通信指令室に入ったり、立入検査の見学、分署に挨拶したりと様々なことを経験した。午前の訓練では、ホースバツクを使用した延長からガンタイプノズルでの放水までを行った。普段行っている操法より実践的な動きで、先輩方に教えてもらいながら高い緊張感で訓練することができた。
先輩方は皆とてもやさしく話しかけてくれるが、出動サイレンが鳴ったり、訓練が始まったりすると、スイッチがしつかり入るところがかつ

こいと思えました。身近に憧れを抱けるような先輩がいる環境にとても感謝しています。

前回から一ヶ月程過ぎての実務研修で、少しは成長した姿を見せることができたと思います。本所に戻った時、即戦力として扱ってもらえるように、次の実務研修で更に成長した姿を見せられるよう、残りの学校生活を大切にしたいと思います。



山田 琉稀
(大館市消防本部)

今回の実務研修は、初の泊まり勤務だった。

午前中はホースバックとホースカリーの取扱方と実際に展長して放水までやった。ホースバックはかなり重さがあり、実際に走って展長して放水までの流れを防火衣を着装してやったが、かなり疲れるし暑くて大変だった。ホースが一〇本入ったホースカーでも展長したが、とても重く大変だった。もつと体を鍛えないといけないと思った。

午後は、通信業務の説明を受け、電話がかかってきた時の対応を教わった。実際の通報でなくても焦ってうまく対応できなかったので、消防学校にいる間にできるように所属に戻りたいと思う。

その後、検査に連れていってもらい気づいたのは、企業の人たちにとでも信頼されていることだ。私も先輩のように信頼される消防士になりたいと思った。

二回目の実務研修を終えて様々な刺激をもらうことができた。残りの初任科生活を一所懸命頑張り、所属に胸を張って戻れるようにしたい。



五十嵐 未夢
(大曲仙北広域市町村圏組合消防本部)

今回の宿泊研修は角館消防署で行いました。雨が降ったり止んだり予定通りではなかったけれど、ホースカー操作訓練、中継訓練等初めての訓練を経験でき、学校でできなかったポリタンクの結索もやることができました。

人はやらないと忘れると教官が言っていたし、一回だけでは覚えられないので復習をして、いつでもできるようにしたいです。また、予防業務要領や救急救命訓練等を行い充実した一日になりました。

でも、救急では忘れていることが多かったのに、教えてもらったことを忘れないように、丁寧早くできるようにしたいと思いました。結索で手こずったり、声も出せて

いなかった、この二つが反省点です。

今後は、この反省を活かして元気に声を出して取り組めるようにしたいです。残り二ヶ月で多くのことを学んで行きたいと思います。



大塚 大輔
(男鹿地区消防第一部事務組合消防本部)

実務研修は二回目でしたが、二四時間勤務は初めてで、かなり緊張感のある勤務となりました。

出勤があつた時の救急隊の人の切り替えや準備の速さを見て、自分も三ヶ月後にこうならないといけないと思うと焦りを感じました。学校での訓練では集中力や注意力を意識して、出勤があつた時に迅速に動けるように頑張っていきたいです。

研修では、ホースカーの使い方、搬送方法、ガンタイプノズルでの放水、通信指令室の見学などを行いました。

夕食後にも先輩方が体力錬成をしている姿を見て、自分はまだまだ体力が足りないと思いました。

仕事以外にも先輩方の努力する姿を見て、自分ももっと努力しないとイケないと強く思いました。

一ヶ月後、また実務研修があるので成長した姿を見せられるように頑張っていきたいです。



伊藤 尚斗
(能代山本広域市町村圏組合消防本部)

今回は所属消防本部での宿泊研修となった。消防学校では学ぶことのできないことを体験できた。それは常に出動準備することだ。

いつ出動指令が出るか分からないので、防火衣の準備はもちろん、心と体の準備もしなければいけない。事務仕事をしているとき、食事をしているときなど、どんな状況でも常に出動できる準備をしなければならぬ。勤務を交代してから終わるまで、緊張感を持たなければならぬ。ということが学校との違いだと感じた。

いつでも迅速に対応するためにも準備することの大切さを学んだ。日頃の生活でも、後回しにする癖を直さなければならぬと感じた。

また、与えられた仕事を完璧にこなさなければならぬと感じた。ミスをするると他署員や先輩方に迷惑をかけてしまう。ミスを減らすために、話を聞いて質問して、説明できるようにしなければならぬ。そのためにも、これからは、学んだことを活かして生活していきたい。



田 口 奏
(由利本荘市消防本部)

一回目の実務研修から二ヶ月間、訓練に明け暮れ、知識技能が着実に身につけてきているのではないかと思います。その成長を確かめ足りないものを見つけるのに、二回目の研修は有意義だったと感じる。

午前中は各車両に搭載されている物の使用方法等の確認、火災現場における消火作業の具体的な戦術を学ぶことができた。

午後は防火衣空気呼吸器を着装し、火災防ぎよ訓練等を行った。初めて扱う資機材、訓練内容だった。戸惑いや迷いが生じ、呼称も元氣よく行うことができなかった。

しかし、初めてでも、よく考え最善の答えを出し瞬時に行動できなければならぬ。また、呼称も元氣でなければ使えものにならない。

今は間違えてもよい時期である。自分で考え質問し、知識技能をどんどん吸収しなければならぬ。今回の実務研修で学んだことを心に刻み、残りの学校生活も元氣はつらつと過ごしていきたい。

最後に、普段の業務で忙しい中、丁寧に指導してくださった所属消防本部の先輩方に心から感謝申し上げます。



令和2年度消防団員数の概要

令和2年4月1日現在の消防団員数(速報値)の概要は次のとおりです。(秋田県総合防災課調査)

1. 消防団員数は15,894人

消防団員数は減少傾向にあり、前年同期比380人減の15,894人となりました。
 条例定数充足率は85.94%、被雇用者率(サラリーマン化率)は78.23%となっています。(単位:人、%)

	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1
消防団員数	17,320	17,177	16,900	16,653	16,274	15,894
前年同期比増減数	△ 171	△ 143	△ 277	△ 247	△ 379	△ 380
条例定数充足率	88.68	89.86	88.92	88.26	87.71	85.94

2. 女性消防団員は25人増の415人

女性消防団員は年々増加しており、前年同期比25人増の415人となりました。(単位:人、団)

	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1
女性消防団員数	324	355	362	384	390	415
前年同期比増減数	7	31	7	22	6	25
女性団員採用消防団数	21	21	22	25	19	21

3. 機能別団員は18消防団、1,045人

機能別団員制度が県内に導入されたのは平成19年度からですが、年々増加しており、前年同期比228人増の1,045人となりました。(単位:人、団)

	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1
機能別団員数	351	512	594	716	817	1,045
前年同期比増減数	64	161	82	122	101	228
機能別団員制度導入消防団数	7	8	9	12	14	18

令和2年度消防団員数(令和2年4月1日現在)

(単位:人、%)

地域名	消防団名	条例 定数	実 団 員 数				定 数 充足率	女 性 団員率	前年同期比較	
			総数	男性	女性	うち 機能別 団員数			団員数	増減数
鹿 角	鹿角市	892	796	767	29	81	89.24	3.64	813	△ 17
	小坂町	150	124	122	2	0	82.67	1.61	132	△ 8
	地域計	1,042	920	889	31	81	88.29	3.37	945	△ 25
北秋田	大館市	1,180	977	881	96	56	82.80	9.83	1,034	△ 57
	北秋田市	760	648	616	32	21	85.26	4.94	648	0
	上小阿仁村	100	81	81	0	3	81.00	0.00	81	0
	地域計	2,040	1,706	1,578	128	80	83.63	7.50	1,763	△ 57
山 本	能代市	850	660	618	42	92	77.65	6.36	692	△ 32
	藤里町	125	109	109	0	0	87.20	0.00	111	△ 2
	三種町	507	430	424	6	63	84.81	1.40	436	△ 6
	八峰町	330	257	251	6	24	77.88	2.33	255	2
	地域計	1,812	1,456	1,402	54	179	80.35	3.71	1,494	△ 38
南秋田	男鹿市	820	768	753	15	75	93.66	1.95	743	25
	潟上市	508	438	421	17	0	86.22	3.88	446	△ 8
	五城目町	205	169	162	7	33	82.44	4.14	151	18
	八郎潟町	85	68	68	0	0	80.00	0.00	72	△ 4
	井川町	145	118	112	6	3	81.38	5.08	120	△ 2
	大潟村	67	58	58	0	13	86.57	0.00	60	△ 2
	地域計	1,830	1,619	1,574	45	124	88.47	2.78	1,592	27
秋 田	秋田市	2,100	1,746	1,723	23	130	83.14	1.32	1,810	△ 64
由 利	由利本荘市	1,802	1,550	1,536	14	195	86.02	0.90	1,610	△ 60
	にかほ市	540	503	491	12	59	93.15	2.39	534	△ 31
	地域計	2,342	2,053	2,027	26	254	87.66	1.27	2,144	△ 91
仙 北	大仙市	1,375	1,106	1,077	29	0	80.44	2.62	1,169	△ 63
	仙北市	630	536	520	16	22	85.08	2.99	558	△ 22
	美郷町	405	345	344	1	18	85.19	0.29	346	△ 1
	地域計	2,410	1,987	1,941	46	40	82.45	2.32	2,073	△ 86
横 手	横手市	2,500	2,287	2,259	28	114	91.48	1.22	2,272	15
雄 勝	湯沢市	1,705	1,552	1,529	23	43	91.03	1.48	1,590	△ 38
	羽後町	513	408	407	1	0	79.53	0.25	424	△ 16
	東成瀬村	200	160	150	10	0	80.00	6.25	167	△ 7
	地域計	2,418	2,120	2,086	34	43	87.68	1.60	2,181	△ 61
計	25消防団	18,494	15,894	15,479	415	1,045	85.94	2.61	16,274	△ 380

消防団員を募集しています

自分のまちを災害から守り、まちの安全と安心をつくる消防団員を募集しています。

消防団員を募集している消防団は次のとおりですが、その数や応募条件は令和2年4月時点のものです。詳細については、市町村の消防担当課または消防本部にお問い合わせ下さい。

多くの方の応募をお待ちしております。

消防団名	募集团員数(人)			応募の条件		問い合わせ先	
	総数	男性	女性	現住所・勤務地	年齢	課所名	電話番号
鹿角市	96	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	消防本部	0186-23-5601
小坂町	47	性別は不問		当町に居住又は勤務	18歳以上	町民課	0186-29-3928
大館市	203	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	消防本部	0186-43-4152
北秋田市	112	性別は不問		当市に居住する者	18歳以上	消防本部	0186-62-1119
上小阿仁村	17	17	0	当村に居住又は勤務	18歳以上	住民福祉課	0186-77-2222
能代市	190	性別は不問		当市に居住又は勤務	18～64歳	能代消防署	0185-52-3311
藤里町	16	16	0	当町に居住する者	18～59歳	生活環境課	0185-79-2115
三種町	76	性別は不問		当町に居住又は勤務	18歳以上	町民生活課	0185-85-4823
八峰町	73	性別は不問		当町に居住又は勤務	18歳以上	総務課 防災まちづくり室	0185-76-4666
男鹿市	52	性別は不問		当市に居住する者	18歳以上	総務課危機管理室	0185-24-9113
潟上市	70	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	総務課	018-853-5301
五城目町	36	性別は不問		当町に居住、通勤又は通学	18歳以上	消防本部	018-852-2028
八郎潟町	16	性別は不問		当町に居住又は勤務	18歳以上	町民課	018-875-5806
井川町	27	性別は不問		当町に居住又は勤務	18歳以上	町民課	018-874-4416
大潟村	9	性別は不問		当村に居住又は勤務	18歳以上	住民生活課	0185-45-2114
秋田市	354	性別は不問		当市に居住、通勤又は通学	18～50歳	消防本部総務課	018-823-4000
由利本荘市	252	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	消防本部	0184-22-4282
にかほ市	37	29	8	当市に居住又は勤務	18歳以上	消防本部	0184-38-2311
大仙市	269	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	総合防災課	0187-63-1111
仙北市	94	性別は不問		当市に居住する者	18歳以上	総合防災課	0187-43-1115
美郷町	60	性別は不問		当町に居住する者	18～55歳	住民生活課	0187-84-4903
横手市	213	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	消防本部	0182-32-1111
湯沢市	153	性別は不問		当市に居住又は勤務	18歳以上	総務課	0183-55-8250
羽後町	105	性別は不問		当町に居住又は勤務	18～64歳	生活環境課	0183-62-2111
東成瀬村	41	性別は不問		当村に居住又は勤務	18歳以上	民生課	0182-47-3403

第一回若手消防団員

活性化推進会議

七月一七日(金)、秋田地方総合庁舎会議室で、第一回若手消防団員活性化推進会議を開催しました。

会議では、今年度に行う若手消防団員を対象とした行事の内容について協議しました。

行事は、県内若手団員の「横の繋がりを作る」ことを目的とし、次のとおり開催することとしました。

- ・ 開催日 令和三年二月六日(土)
- ・ 開催場所 イヤタカ秋田市中通
- ・ 対象者 各消防団から概ね四〇歳までの団員一名

・ 内 容

- ① 講演 全国の消防団員の現状と課題 (仮題)
- ② グループディスカッション



女性消防団ネットワークショップ

開催準備委員会

七月二十九日

(水)、秋田地方総合庁舎会議室で、女性消防団ネットワークショップ会議開催委員会を開催しました。

今年度は九名の委員のうち五名が交代



し、全員出席のもと、今年度の行事の内容について協議しました。
一〇月二三日(金)に二回目の委員会を開催し、引き続き検討することとしました。



旗 団 帯 ・ 天 半 防 消
旗 勝 優
旗 旗 旗
ゼ ッ ケ ン
の れ ん
手 拭 ・ タ オ ル ・
旗 幕 類 名 入 染 物 専 門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ	シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管	消防被服一式
各種消火器	消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

まじい 纏 神社例大祭で防災祈願

六月二四日(水)、能代市の日吉神社境内にある纏神社で例大祭の本祭が行われました。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため参列者を絞り、能代市、能代山本広域市町村圏組合消防本部、能代市消防団から約二〇名が参列し、玉串を捧げるほか、元日本消防協会副会長の中田初雄氏の顕彰碑に献花を行い、地域の安全や無火災を祈願しました。



例年であれば、前日の二三日に宵祭として恒例となっている奉納芸能大会を開催しますが、今年は新型コロナウイルスを警戒し密集や密接を避けるため中止といたしました。

この纏神社は、昭和一四年に消防が団旗をいただくまでの間、過去幾星霜にわたり消防の荣誉ある象徴であった纏を称え、それを鎮火守護神として祀る神社で、昭和一七年に新社殿を建立し、同年六月二四日に鎮座式を挙行、以後この日を例祭日とし、毎年祭祀を行っているものです。

一日も早く新型コロナウイルスが収束し、例年どおりの開催ができるよう願っております。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和2年		令和元年			同期比較	
	7月	累計	7月	累計	年計	7月	累計
建物	9	90	10	106	198	- 1	-16
林野	0	21	2	31	32	- 2	-10
車輛	2	17	2	15	31	0	2
その他	2	54	5	74	95	- 3	-20
合計	13	182	19	226	356	- 6	-44
死者数	3	8	0	12	18	3	- 4
負傷者数	2	26	5	47	85	- 3	-21

〔情報提供〕能代市山本郡支部



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- 消防設備保守点検
- トーハツポンプ
- キンパイホース
- 各種消防機械器具
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp